



「心を使って人と向き合う仕事がしたい」 転職をして気づいた自分の人生観

私は2014年にコープみやざきに入協し6年間働き、2021年に一度退職をしました。そして2024年4月に再入協しました。

再入協の大きなきっかけとなったのが、退職前に担当していた地域での組合員さんの存在でした。毎週の配達を心待ちにしてくれ、いつも温かく迎えてくれたその方は、まるで家族のような存在でした。退職後も連絡をくださり、福岡まで食べ物を送ってくれるなど、息子のように気遣ってくれました。しかし、ある日を境に連絡が途絶え、ご家族の方から、その組合員さんが危篤状態にあると知らされました。お通夜に参列した際、ご家族から感謝の言葉をいただき、生前一緒に撮った写真が飾られているのを見て、涙が止まりませんでした。

それまで「人生の終わり」を真剣に考えたことはありませんでしたが、この出来事を機に、自己啓発書を参考に「終わりを思い描く」ことの重要性に気づきました。自分の人生の主人公は自分自身。最終的にどうなりたいかを考えることで、今何をすべきかが見えてきました。

当時、売上重視の仕事に従事していましたが、成果が伸び悩んだ際に「何のために働くのか」が曖昧になり、信念や誇りを持てずに悩んでいました。そこで自分の仕事観や人生観についてゆっくり時間をかけて見つめ直した結果、コープみやざきの理念と自身の価値観が一致していることに気づきました。

この経験から、「心を使って人と向き合う仕事がしたい」という思いが強くなりました。地域責任者として働くことが、自分にとって意義ある仕事であり、心から納得できる道だと思い、コープみやざきへの再入協を決意しました。

退職前の6年間を振り返ると、周りのことよりも自分のことばかり考えていたように思う。「総合職職員になりたい(内部登用試験で合格したい)」「認められたい」という気持ちが強く、地域責任者としての目標も曖昧で、ただ漫然と日々を過ごしていた。

そんな時、友人から「給料も良いし仕事も楽だよ」と誘われ、インターネットを通じて商品やサービスを販売する運営の仕事に転職。最初は給料の良さに喜んだが、次第に「何のために仕事をしているんだろう?」「このまま一生続けたいのか?」と疑問を抱くようになっていった。

「人生には終わりがある」という出来事がきっかけで、自分の人生を見つめ直すようになった時に出会った本がある。「終わりを思い描くことから始める」という言葉に感銘を受け、自分の人生や仕事を通じてどうなりたいかを考えるようになった。「お金持ちになりたい」「幸せになりたい」という抽象的な目標ではなく、大切にしたい価値観を明確にし、それに基づいて行動することを意識するようになった。

生協を退職後、「戻ってこないか?」と自分のことを気にかけて定期的に連絡くれたコープみやざきで働いている旧友がいる。正直、一度退職した職場に戻ることは何だか情けなく、恥ずかしいという思いがあった。しかし彼の関わりが私の背中を大きく押してくれた。再入協後、温かく迎えてくれた仲間や組合員さんがいて、今では戻ってきて本当に良かったと思っている。

再入協にあたり、将来の自分の姿を想像してみた。「退職する時、どんな職員だったと言われたいか?」と考えた時、コープみやざきの基本スローガンである「私たちの供給する商品を中心に家族の困らんがはずむこと」をめざします。」を実現するために、毎日仕事をしてきた人だった、と言われたと思った。

「新村さんに言えばきちんと対応してくれる」「私の声を受け止めてくれる」と、組合員さんや働く仲間から信頼される存在になるために行動している。

私はこれまで、一人ではなかなか変われなかった。でも、私のことを思い関わり続けてくれた組合員さんや旧友の存在が、想像以上の勇氣と原動力を与えてくれた。今度は私が誰かの力になりたい。生協で働きたいと思ってくれる仲間や、一人でも多くの組合員さんに生協を利用し続けたいと思ってもらうために、私自身が関わり続けることの大切さに気づけた。

最後に組合員さん一人ひとりに、喜びや悲しみ、家族との幸せがある。コープみやざきは、そんな思いを大切にする職場だと思う。日々の地道な努力を積み重ね、組合員さんや職員、家族の笑顔があふれるよう、感謝の気持ちを忘れずに活動していきたい。

私も、組合員さんも、職員一人ひとりが自分の人生の主人公です!

Akihiro Shinmura

ここで働けることの幸せを皆に伝えていきたい

